

日本画 7人 セブン

乙部亮
OTOBE Ryo

北川由希恵
KITAGAWA Yukie

工藤彩
KUDOU Aya

田中やよい
TANAKA Yayoi

中田日菜子
NAKATA Hinako

南野和
MINAMINO Nodoka

森花
MORI Hana

特集展示

椿とともに

金沢美術工芸大学日本画修了生7人展



ギャラリートーク

作家による作品解説を行います。
展覧会や作家の魅力に触れる1時間。

11/11(土) 15:00~16:00

11/25(土) 14:00~15:00

要コレクション展入場券(申込不要)

椿



小林景次 椿
1951年(昭和26)

咲く

あいおいニッセイ同和損保コレクション展

★ 学びの杜ののいちカレード 野々市市太平寺 4-156

2023年11月2日(木)~11月26日(日) 10:00~18:00

(毎週水曜日は休館となります。最終日は15:00まで)

一般 500円 高・大学生 300円 中学生以下・障害者手帳をお持ちの方無料

主催 文化庁、厚生労働省、石川県、石川県教育委員会、野々市市、野々市市教育委員会、いしかわ百万石文化祭2023実行委員会、いしかわ百万石文化祭2023野々市市実行委員会

特別協力 あいおいニッセイ同和損害保険株式会社

問い合わせ いしかわ百万石文化祭2023 野々市市実行委員会事務局 (野々市市地域振興課 TEL076-227-6121)

いしかわ
百万石
文化祭
2023



第38回国民文化祭 第23回全国障害者芸術・文化祭
いしかわ百万石文化祭2023 野々市市地域文化発信事業

椿、咲く



岸田劉生
籠椿
1924年(大正13)



北大路魯山人
色絵椿文鉢
1935-44年(昭和10年代)



酒井抱一
戴椿鶯図扇子
18-19世紀(江戸時代)



富田溪仙
春の花籠図
1930-31年(昭和5-6)



尾形光琳
紅椿図団扇
18世紀(江戸時代)



尾形光琳
椿図蒔絵硯箱
18世紀(江戸時代)



尾形乾山
色絵椿文輪花向付
18世紀(江戸時代)



竹久夢二
舞妓
1915-20年(大正中期)

椿は日本を代表する花木ですが、冬の寒さに耐え、春に先駆けて花開くこの花はことに北陸地方では身近なものとして親しまれ、野々市市の市花木ともなっています。また、その葉は常に緑をなすなど、すぐれた繁殖力をみせるその強靱な生命力に私たちの祖先は「安寧と繁栄」への希望を託してもきました。

美術に表わされた椿は、室町時代の花鳥図などに早い作例が見出せますが、工芸の意匠にはさらに古いものがあります。そのうち江戸時代から現代に至るまで、実に多くの美術家たちがこの椿に魅せられ、絵画や工芸作品が創作されてきました。

本展は、椿絵の収集で知られる「あいおいニッセイ同和損保コレクション」のなかから、江戸時代の琳派を代表する尾形光琳、乾山らによる絵画や工芸作品や、近代の竹久夢二、岸田劉生、さらには小倉遊亀や高山辰雄、堀文子など現代の巨匠たちが描いた椿絵の名品を選び、[いしかわ百万石文化祭2023]の一環として開催するものです。椿の花のつややかな美しさで寿ぎ、この先皆様の吉祥の魁となればと願うものです。



乙部亮
空
2022年



工藤彩
消像
2019年



中田日菜子
桑
2023年



森花
化ける者
2022年



北川由希恵
煙る花
2022年



田中やよい
彼らの木
2018年



南野和
庭を歩く
2021年

椿とともに

特集展示「椿とともに」 一金沢美大「日本画^{セブン}7人」展

「椿、咲く」と銘打った「あいおいニッセイ同和損保コレクション」の椿絵の名品48点とともに、金沢美術工芸大学大学院で日本画を学び近年修了した7人の作家たちによる自然にまなざした作品を、同じカレードの空間に特集展示します。

乙部亮は野放しの広い草原に野生の輝きを追求し、北川由希恵は野に咲く草花が持つ時間と清明さを掬いとしています。工藤彩は珊瑚や庭の植物が刻一刻と移り変わる定めをみつめ、田中やよいは動植物たちの命との交歓から得た慈しみを絵にしています。

また中田日菜子の絵は、自ら飼育する動植物との日常でのリアルな関わりから生まれます。南野和の作品は、庭を歩きながら思索した観想と向き合い続けたもの。森花は、人の気配をまとった植物の在り様を拾うように描いています。

7人の作家たちが、それぞれ独自の方法で向き合い培った自然の生命との抜き差しならない関係は、先達たちによる椿絵のつややかな生命の輝きとも呼応する絵画空間へと昇華しているように思います。2つの展示から生まれるハーモニーをお楽しみいただければ幸いです。